



桃山を仰ぐ道 Momoyama Route

スタート 京阪電車 丹波橋駅 (START) (Keihan) Tambabashi Sta.
 近鉄電車 近鉄丹波橋駅 (Kintetsu) KintetsuTambabashi Sta.

基本コースのみ / 約6.2km、約1時間30分

ゴール 京阪電車 伏見桃山駅 (GOAL) (Keihan) Fushimi-momoyama Sta.
 近鉄電車 桃山御陵前駅 (Kintetsu) Momoyamagoryomae Sta.
 JR 桃山駅 (JR) Momoyama Sta.



明治天皇伏見桃山陵 Meiji Tenno Fushimi no Momoyama no Misasagi
 昭憲皇太后伏見桃山東陵 Shoken Kotoigo Fushimi no Momoyama no Higashi no Misasagi



伏見城を築いた豊臣秀吉

伏見城石垣に使用されていたと思われる石材



乃木神社 神門と乃木大将胸像

◆西郷隆盛と坂本龍馬

薩摩藩士の西郷隆盛と大久保利通は大黒寺でも国事を論じました。坂本龍馬は薩長同盟を斡旋した2日後の慶応2年(1866)1月23日、宿泊していた寺田屋で伏見奉行所の役人に囲まれ負傷、脱出し濠川べりの材木小屋に隠れます。報せを受けた薩摩藩は藩の旗印を掲げた船を出して龍馬を救出、薩摩島津伏見屋敷にかくまいました。傷を癒すために龍馬は妻のお龍と薩摩に向けて旅立ちます。日本最初の新婚旅行と言われ、龍馬とお龍の像が寺田屋の前の浜に建てられています。

◆酒どころ伏見の近代

良質な地下水に恵まれ、町の発展とともに日本酒の醸造が盛んになります。今も酒蔵が伏見の風情を醸し出し、川べりから見る酒蔵と柳並木の景色も美しく、あちこちに名水が湧き出ています。明治になると、伏見と大阪の間は蒸気船で結ばれ、明治28年、京都と伏見の間6キロを結び日本で最初の電車が開業、電気鉄道事業発祥の地の碑が建ちます。また、伏見港と宇治川を結ぶべく昭和4年に作られた三桧閘門は、月桂冠大倉記念館や松本酒造酒蔵などとともに近代化産業遺産に認定されています。

◆桃山を仰ぐ

明治10年、明治天皇は京都に行幸・滞留され、神武天皇陵参拝の折には伏見の小学校などに立ち寄り、親月橋で網漁をご覧になりました。京都ご滞留中は「御所」の保存など多くのご配慮を賜り、東京奠都で寂れていた京都は復活を遂げます。明治天皇は明治45年7月30日に崩御になります。「御陵は伏見に営むように」との御遺志によりここ伏見桃山に営まれ、明治天皇に殉じた乃木希典夫妻を仰ぎ尊ぶ人々の手で乃木神社が御陵の麓に建てられました。明治天皇陵と皇后の昭憲皇太后の御陵は、共に上円下方墳の形式で築かれ、「さざれ石」で葺かれています。

◆徳川幕藩体制下の伏見

関ヶ原の合戦後、徳川家康は銀貨を統一するため、銀貨を鑄造し発行する銀座を日本で初めて伏見に設けました。また家康が再建した伏見城で、家康、秀忠、家光と3代に亘って將軍宣下(征夷大將軍に任命するという天皇の言葉を使者が伝える儀式)が行われ、江戸幕府は伏見を直轄地とし、伏見奉行を置いて置きました。けれども伏見城は一國一城令により廃城となります。城跡には桃や梅の木が植えられ、果実は大坂に出荷されました。やがて梅や桃の花の名所となり、梅溪や桃山と呼ばれ、花を見に与謝蕪村ら多くの文人がしばしば訪れています。

◆人々の心の拠り所

徳川家康の命で建てられた極彩色の本殿が美しい御香宮神社、辨才天を祀り伏見奉行の建部内匠頭ゆかりの長建寺、大黒天を祀り薩摩寺とも呼ばれる大黒寺、能楽にも取り上げられた金札宮、天武天皇ゆかりの三桧神社、伏見城の遺構と伝えられる山門を持つ源空寺、松尾芭蕉の句碑や油懸地蔵がある西岸寺、痰切地蔵の本成寺、釜敷地蔵の勝念寺などの社寺が人々の信仰を伝えています。

◆港町・宿場町 伏見

伏見と大坂を結ぶ三十石船、宇治川を下ってきた柴船、さらに舟倉が京都二条との間に開いた高瀬川を往来する高瀬舟がひしめく京橋の周辺には、本陣4軒、脇本陣2軒、旅籠39軒が建ち並びました。京都へは、伏見街道と、牛車の通行のために車石が敷かれた竹田街道で結ばれます。西浜等の浜地に問屋が軒を連ね、伏見は港町・宿場町として賑わい、様々な情報もたらされ、それを目当てに人々が行き交いました。

伏見・桃山 Fushimi - Momoyama

◆古代・中世の伏見

広々とした景色が広がる伏見には、長岡京ついで平安京を定めた桓武天皇の御陵が築かれ、平安時代の後期になると貴族の別荘が建てられます。やがて伏見荘は皇室の御料になり、その中心にあった御香宮神社では、室町時代、毎年のように猿楽や相撲が奉納され、人々の楽しみになっていました。

◆豊臣秀吉の伏見城

長い戦乱の時代の末に天下を統一した豊臣秀吉は、伏見に通じる街道や港を整備し伏見城を築きます(本丸は、明治天皇の御陵が営まれた所であり、現在の伏見桃山城は、伏見城の御花畑山荘の跡に昭和39年に建設されています)。こうして伏見は、全国の大名の屋敷が建ち、職人や商人が集まる巨大な城下町になります。秀吉は晩年、大坂城より伏見城で過ごすことが多く、慶長3年(1598)に伏見城で亡くなりました。治部少輔の石田光成の上屋敷跡が治部少丸、その北側にあった堀の跡が治部池と呼ばれる他、桃山井伊掃部東町や桃山町伊賀といった、大名や国の名前がついた地名が今も数多くあります。